



令和 5 年 2 月 13 日

報道関係 各位

名古屋市立大学病院 整形外科
主任教授 村上英樹
電話 : 052-853-8236

野球復帰を目指す高校球児の脊椎がん手術に世界初の方法で成功

【概要】

この度、名古屋市立大学病院の村上英樹医師は、がん（肉腫）の脊椎転移に対して、3つの脊椎を完全切除する“腫瘍脊椎骨全摘術”という超高難度手術を無輸血で成功させました。また、当該患者は高校球児で、野球復帰したいという願いを叶えるべく、切除した脊椎の後方部分（椎弓）を凍結処理して元の位置に戻すという世界初の方法で脊椎を再建することに成功しました。当該患者は2022年12月に手術を行い、2023年1月に退院、2月現在では部活動にも復帰し、ジョギングや短い距離でのキャッチボールも行っております。

【背景】

脊椎がんに対し、がんに侵された脊椎を丸ごと切除する“腫瘍脊椎骨全摘術”は1989年に考案された日本オリジナルの手術です。現在、この手術を世界で最も多く施行しているのが名古屋市立大学整形外科主任教授の村上英樹医師であり、この手術を無輸血で行うことができるのは世界で村上医師のみとなっております。

さらに2010年、村上医師はこの手術を改良し、脊椎がんの切除と同時に全身の免疫療法が可能な一石二鳥の手術術式を考案し、手術概念を飛躍的に発展させました。それが、切除した脊椎の骨を凍結処理してまた体内に戻す“次世代腫瘍脊椎骨全摘術”です。

村上医師は、近年患者数が急増している脊椎がん分野において、トップランナーとして活躍しております。

【術式の説明】

第9, 10, 11胸椎の3椎体に及ぶ肉腫の脊椎転移に対して、3つの脊椎を丸ごと切除しました。切除後の脊椎再建では、脊椎を金属インプラントで固定し、金属インプラント周囲に細かく砕いた骨を移植するのが従来の再建方法でした。従来の方法は術後の日常生活は可能でしたが、3つもの脊椎を切除しているため、当該患者が目指すスポーツ復帰までは到底及ばないという状況でした。そこで、野球復帰を目指し、切除した脊椎の椎弓3つをマイナス196℃の液体窒素で凍結処理して、3つの椎弓を糸で連結させ、そのまま体内の元の位置に戻す画期的方法で脊椎を強固に再建することに成功しました。この再建方法は世界初の方法となります。

※取材をご希望の際は、事前に病院広報担当（西岡・土井 電話 052-858-7529）までご連絡をお願いいたします。